

工藤杏・広江栞菜・

植竹勝治・加瀬ちひろ・小玉敏也・福井智紀

研究の背景と目的

- 動物園への訪問は健康状態へ良い影響をもたらすとされている (e.g. Akiyama et al. 2021)。
- 動物園への訪問経験とポジティブ情動, IL-6 (インターロイキン-6) との関連を調べる。
炎症性サイトカインIL-6は近年、ポジティブ情動「畏敬の念」および社会的なストレス抵抗性と関連することが分かっている (e.g. Hodes et al. 2014)。

研究・調査方法

調査対象：動物応用科学科23年度1年生 171人

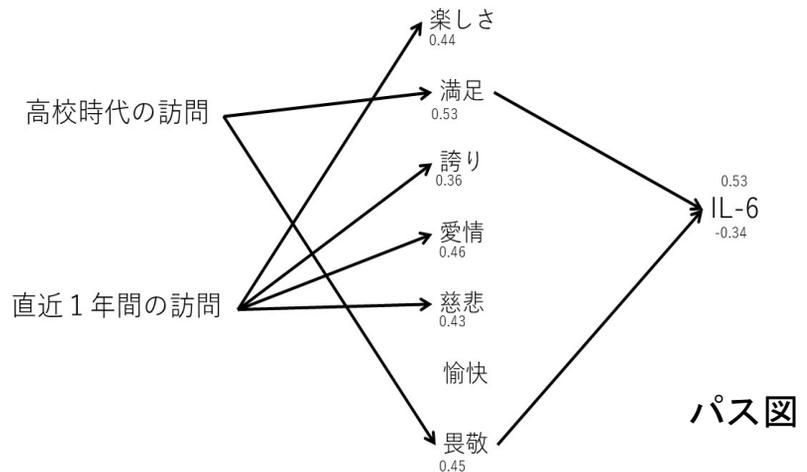
調査方法：動物園への訪問経験に関するアンケート・DPES（日本語版ポジティブ情動特性スケール）・対象者から採取した唾液中IL-6分析を行い、訪問経験がDPESを介してIL-6に及ぼす効果を重回帰分析を用いて解析した。

結果と考察

- 高校時代の訪問経験はポジティブ情動の「満足」「畏敬の念」の予測因子である
(満足：標準回帰係数 $\beta = 0.53$, $P < 0.01$ ・畏敬の念： $\beta = 0.45$, $P < 0.01$)。
- 直近1年間の訪問経験はポジティブ情動の「楽しさ」「誇り」「愛情」「慈悲」との予測因子である
(楽しさ： $\beta = 0.44$, $P < 0.01$ ・誇り： $\beta = 0.36$, $P < 0.05$ ・愛情： $\beta = 0.46$, $P < 0.01$ ・慈悲： $\beta = 0.43$, $P < 0.01$)。
- ポジティブ情動の「畏敬の念」は唾液IL-6濃度の予測因子である
($\beta = -0.34$ ・ $P < 0.1$)。

・直近（高校時代）の動物園訪問が、ポジティブ情動「畏敬の念」を介して、IL-6を低減する可能性が示唆された。

・「畏敬の念」のIL-6に対する β は、先行研究 (Anderson et al. 2015) と同程度の値であった。



これから

- この効果をもたらす訪問時に受ける具体的な心理的因子を探索し、水族館との違いについても検討する。

* より詳細な因子の探索

→動物園を構成するどの要素がこの効果をもたらしているか。

* 水族館の訪問経験との関連の追加調査

→動物園と水族館との影響の違いについて

〔謝辞〕 本研究の調査の際、ご協力いただいた動物応用科学科4年次大村優香氏に感謝申し上げます。